

明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第432回

【学生の目】

人々はどのような住宅を求めているのだろうか。断熱性などの機能性を重視した住宅、国内外の伝統や斬新さを意識したデザイン性が特徴の住宅、ローコストを前

自然素材が生むまとまり

提に材質と空間のまとまりを意識した住宅など、人々のニーズを満たしていくなかで様々な住宅が生まれている。好みや予算などの条件により住宅をオーダーメイドし、または住宅を選択して新しい生活をスタートするが、魅力的な住宅ほど丁寧に、大切に住まい、長く暮らしていけるだろう。

すべてを景観の一部として意識

じ、空気が循環して涼しさももたらす。目に見えないものも含めて、自然素材が住宅地全体を快適な空間にまとめ上げている。

ののおかげで、外側から住宅内が見えず、居住者も外からの視界を気にする必要がない。植栽が塀の役割を果たしているが、閉鎖的ではなくむしろ開放的でありながらプライバシーの確保もできている。ほんの数センチの工夫で、一つの住宅をよりすてきなものにするのできるのだ。

越境した枝や根に関する民法の規定が浸透し、日本の住宅地を緑が覆うことを阻害する。人為的に必要でもない。都会の住宅地に斜面をつくり、山野草を植えて景観を熟成させ、境界の機能美を認識したい。

う。暖かい日が続く中、気温が低く雨が降っていたが、大学のゼミの調査で住宅メーカーが手掛けた住宅地を訪れた。足を踏み入れて気付いたことは、住宅の周りや道の脇に緑が充ちているほか、道路に石畳の部分があるなど、自然素材が存分に取り入れられていたことだ。緑の効果は景観だけではなく。植物の蒸散作用によって微気候が生

高い樹木がバランスよく配置されている。法面がもたらす効果は大きく、高低感と奥行き感が生まれることで空間を広く見せ、上品さを生み出している。また、形状に工夫した排水溝を用いることにより道路脇の石畳と植栽のつながりが自然で、空間が隔てられることがなく、景観に連続性がある。



植栽が上品さを生み出す

五十風 実菜

不動産学部3年

塀を用いず植栽で空間を分けている住宅地の中で、ひととを互いに引き寄せ、住宅が合った(写真)。植栽と住宅の均衡が特に素晴らしい。

まず、植栽部分が少し急な斜面になっており、そこに背の低い草木と

この住宅からは暮らしが自然と想像してしまいたくなるような関